

第2回市島地域市立小学校統合準備委員会 会議録

| | | |
|------|----------------|-------------------|
| ◇開 会 | 令和3年10月 5日 (火) | 午後 7時30分 |
| ◇閉 会 | 令和3年10月 5日 (火) | 午後 9時30分 |
| ◇会 場 | ライフピアいちじま研修室 | |
| ・委員長 | 川上 泰彦 | ・副委員長 木寺 章 |
| ・委員 | 青木 修 | 余田 義信 坂谷 高義 淵上 利美 |
| | 吉見 祐也 | 山邊 敦 井上 直人 荻野 有希 |
| | 由良 英樹 | 加藤 宏生 長井 勇人 足立 幸司 |
| | 淵上 智帆 | 坂谷 幸久 吉井 公乃 足立三友紀 |
| | 四方まどか | 蘆田 勤 吉見 典彦 足立 圭造 |
| | 内田 順子 | 中澤 正樹 山口 滋唯 田野 悟 |
| | 余田 淳子 | |

〔事務局〕

| | |
|---------------------|-------|
| ・教育長 | 片山 則昭 |
| ・教育部長 | 藤原 泰志 |
| ・教育部次長兼学校教育課長 | 足立 和宏 |
| ・学事課長 | 井尻 宏幸 |
| ・健康福祉部子育て支援課長 | 荒木 和美 |
| ・健康福祉部子育て支援課子育て支援係長 | 芦田 将司 |
| ・教育総務課長 | 足立 勲 |
| ・教育総務課学校統合準備係長 | 船越 正一 |
| ・教育総務課指導主事 | 小田 敏治 |
| ・教育総務課主事 | 畑中 直之 |

〔傍聴者〕 13人

次第

(足立教育総務課長)

1 開会

皆さん、こんばんは。丹波市教育委員会教育総務課の足立勲と申します。よろしく申し上げます。本日は夜分お疲れのところにもかかわらず、御出席いただきありがとうございます。

それでは、定刻となりましたので、ただいまから第2回丹波市市島地域市立小学校統合準備委員会を開会いたします。

会議を始める前に、委員の皆様にご配付資料の確認と注意事項がございます。まず、本日の資料につきましては、事前に郵送させていただいております。お忘れの方はございませんでしょうか。

次に、この委員会についての注意事項です。本日の委員会は、公開して開催しているため、傍聴席を設けています。委員会の会議録を作成いたしますので、録音させていただきます。会議録作成の関係から、発言の際は、マイクを持ってまいりますので、名前を発せられてから御発言いただきますようお願いいたします。会議録は、後日、教育委員会ホームページに掲載いたします。

教育委員会、またはこの委員会からの情報発信、記録のために写真撮影を行う場合があります。また、本日は、報道機関の方も来られておりますので、写真撮影をされる場合がありますので、御了承ください。

次に、傍聴席の皆様へお願いです。本会議は、傍聴規則を定めていますので、規則に基づいて傍聴いただきますようお願いいたします。委員会の資料を傍聴者用として準備いたしておりますので、御覧いただきながら傍聴いた

できればと思います。

次第

(足立教育総務課長)

それでは、開会に当たりまして、市島地域市立小学校統合準備委員会、川上泰彦委員長から御挨拶をいただきます。

(川上委員長)

皆さん、こんばんは。資料を見てましたら、前回、第1回が6月の末、6月24日でした。その後、社会的にもバタバタしたということ等々ありまして、第2回が今日、10月5日ということになりました。この間、各小学校区で聞取り、懇談のほうをそれぞれさせていただきまして、非常に有意義な、いろいろ情報を頂くことができたかなというふうに思っております。正規の会議以外にお時間とっていただきましたこと、感謝申し上げます。ありがとうございました。

本日、そういった聞取りの成果を受けてのヒアリングのまとめ、それから、想定される統合パターンについての案の提示、こういうことに進んでまいろうかと思えます。ぜひ、具体の案を前に、それぞれの委員さん、お考えになつてること、お感じになつてることをお話しただけですと、非常にありがたいなというふうに思っておりますので、本日、御議論の参加等、どうぞよろしく願います。

(足立教育総務課長)

ありがとうございました。それでは、ここからは川上委員長により議事進行、よろしく願います。

次第

3 地域ヒアリングまとめ

次第

4 市島地域小学校 想定される統合のパターン

(川上委員長)

では、お手元の次第に従って、第2回の統合準備委員会、進めてまいりたいと思えます。どうぞよろしく願います。本日は、特段、大きな決定をするということはありません。次第としては、3、地域ヒアリングのまとめ、4、市島地域小学校、想定される統合のパターン、これ、二つ、連続の形になりますが、事務局から御説明を頂いた後に、残りの時間については、自由討議というふうにさせていただいて、お考えをぜひ聞かせていただきたいなというふうに考えております。

では、3番の地域ヒアリングのまとめと想定される統合パターンについて、事務局のほうから御説明よろしく願います。

(船越教育総務課学校統合準備係長)

失礼します。学校統合準備係長の船越です。座って説明をさせていただきます。

それでは、私のほうからは、7月から8月にかけて実施しました各校区別の地域ヒアリングのまとめと、そのヒアリングでの御意見を基に、市島地域の小学校の想定される統合パターンについて、一括で説明をさせていただきます。

配付資料1ページを御覧ください。こちらについては、地域ヒアリングでの委員の皆様から出た意見を4項目に分けてまとめたものになります。

まず、統合の形態ですが、将来的に児童が減少すれば、再度、統合協議をすることになるため、一度に1校にしたほうが良いということから、現在の5校を1校にするという御意見や、5校を1校にする統合の場合、施設整備や統合場所の決定に時間がかかってしまうことや、現在の認定こども園の関係性を維持でき、幼小連携教育も図りやすい点から、5校を2校にするとい

う御意見、また、まずは複式学級や今後、複式学級規模となることが見込まれる前山小学校や鴨庄小学校を統合し、児童数が減少した際に、さらに統合を進めてはどうかというような御意見から、5校を3校にするという意見がございました。

その他としては、児童数が今後も減少することが予想されるため、段階的な統合となった場合は、将来的な形も考えたほうが良いという御意見もございました。

次に、現状に関してですが、多くの子供たちの中で学ばせてあげたい、少人数学級で教員の目が行き届いた教育をしてもらえるのはメリットである、こども園が同じなのに小学校で離れ離れになるのはかわいそうなどの御意見がございました。

次に、統合の時期ですが、既に鴨庄小学校では、複式学級が生じていることや、男女の人数の割合が偏っている学年があることなどから、どの校区からもできるだけ早く統合すべきという御意見を頂いております。ただし、地域によっては、保護者アンケートを実施されたところもあり、その中では、統合に前向きではない御意見もございました。

次に、その他の意見ですが、将来的に1校となる可能性があるならば、2校、3校となる統合を行う際は、施設整備を行わず、経済的な方法をとってほしい、統合して校区がなくなった場合、今のように地域から支援が受けられるか不安といった御意見もございました。また、具体的なパターンやシミュレーション、青写真のようなものを示してほしいといった御意見があったようなどころから、本日、資料としてこの後、事務局からお示しをさせていただきたいと思います。

2ページを御覧ください。ここからは、想定される統合パターンについて、対象となる学校数や令和3年3月末の住民基本台帳ベースの児童数、想定される統合場所、統合時期、期待できる効果、課題を整理しております。

まず、5校から1校にする統合の場合ですが、対象は市島地域の5小学校全てとなります。こちらについては、児童数は388人となり、全ての学年が2学級となります。想定される統合場所は、協議により決定されることから未定としております。統合時期ですが、統合に関する具体的な事項が決定してから、施設整備がある関係で、統合を決定してから4年から5年後となる見込みです。

期待できる効果としては、小中一貫校や義務教育学校により9年間を見通した連続性のある教育が可能となり、生活と学習面から系統的、継続的な指導が期待できること、また、各学年2学級以上の規模となることから、国の適正規模の基準を満たすことができることとなっています。

以降、課題としては、大規模な施設整備が必要となることや、統合場所の決定など多くの調整事項が生じることから、統合協議に時間を要することとなり、先ほど地域ヒアリングのまとめでもあった、できるだけ早く統合すべきの希望には応えられないということになります。

次に、3ページを御覧ください。こちらは、5校から2校にする統合の場合ですが、対象としては、1校目は竹田小学校・前山小学校。2校目は、吉見小学校・鴨庄小学校・三輪小学校となります。児童数ですが、1校目の竹田小・前山小ですが、2校合わせて160人となり、各学年1学級となります。2校目の吉見小学校・鴨庄小学校・三輪小学校ですが、3校合わせて228人となり、各学年1学級から2学級の規模となります。

想定される統合場所ですが、地域ヒアリングの意見などを踏まえ、竹田小学校、吉見小学校としております。統合時期ですが、1校目の竹田小学校・前山小学校については、最短で令和5年、または令和6年となり、2校目の3校については、3校同時の統合を早期に希望されると、教室数が足りませんので、施設整備を行わない場合は、令和8年度以降、それより早く統合を

希望する場合は、改築や増築が必要となります。ただし、地域ヒアリングでも御意見としてあったように、段階統合を行う際は、施設整備を行わず、経済的な方法をとってほしいという御意見と同様に、市長部局からも段階統合に当たっては、増改築を伴う施設整備は、今の段階では難しいという判断がされているという状況です。

また、最短で令和5年としておりますが、こちらも、遅くとも今年中というか、早い段階で統合の形態を決定した上で、校名や通学支援など、様々な調整ができていくという前提での令和5年としておりますので、形態の決定が延びたり、様々な調整が難航する場合は、令和5年の開校は難しいことになるということです。

次に、期待できる効果としては、5校を1校にする場合に比べて、大規模な施設整備は不要で、早期に統合が実現できること、また、認定こども園単位での統合となることから、幼小の連携教育が実施しやすいことなどが挙げられます。課題としては、吉見小・鴨庄小・三輪小の統合には、先ほど申し上げたように、現況の校舎では普通教室が不足するため、校舎の改修や増築が必要となることや、校名の変更を伴いますと、それに合わせて校歌や校章も変更となることから、早期の統合が難しくなること、また、スクールバスなど遠距離通学の支援の調整が必要であることなどが課題として挙げられます。

次に、4ページ、5校から3校に統合する場合ですが、こちらについては、対象としては、1校目は、先ほど申し上げたような竹田小学校・前山小学校、2校目は、吉見小学校・鴨庄小学校、そして、3校目は現在の三輪小学校そのままに残す形となります。児童数ですが、1校目の竹田小・前山小については、2校合わせて、先ほど同様に160人となり、各学年1学級となります。2校目の吉見小・鴨庄小学校ですが、2校合わせて147人となり、各学年1学級の規模となります。

想定される統合場所ですが、5校から2校と同様、竹田小学校、吉見小学校としております。統合の時期ですが、1校目の竹田小・前山小、2校目の吉見小・鴨庄小ともに最短で令和5年、または令和6年としております。

期待できる効果としては、現況の校舎に必要な教室が確保でき、施設整備が不要であることや、5校から1校、5校から2校の想定される統合のパターンの中で最も早く統合できることなどが挙げられます。課題としては、5校を3校とも少し重複するんですが、スクールバスなど遠距離通学支援の調整が必要であることや、校名の変更を伴いますので、それに合わせて校歌や校章も変更となることから、早期の統合は難しくなることなどが挙げられます。

説明は以上となりますが、5ページには令和3年3月31日段階の住民基本台帳ベースの各校区別の人数や統合パターン別の人数を載せていますので、学級数などを確認する場合の資料として御活用いただければと思います。また、6ページには、学校別の建築や大規模改修などの年度を載せていますので、併せて御確認いただければと思います。

簡単ですが、私からの説明は以上となります。

次第

(川上委員長)

5 自由討議

ありがとうございました。今、地域ヒアリング、5校区させていただいた中での御意見の御紹介、それから、それらを受けての統合パターン、想定されるものを事務局のほうで3案、作成して御説明いただきました。

この後は自由討議の時間というふうにさせていただければというふうに思います。出てきた案につきましての質問、御意見、それから、この案にとらわれずで、何かお考えの点などありましたら、それについてもぜひお聞か

せいただければというふうに思っておりますが、御意見いただければと思いますが、いかがでしょうか。お願いします。

(委員)

この資料のパターンと、もうひとつのパターン、前山の地域のヒアリングのときに、私が申し上げて、委員長が、それは分校制ですねという言われたパターンがありまして、皆さん、そんなことお考えかどうか分かりませんが、私がヒアリングのときに話させていただいたのは、五つの小学校に生徒がいなくなる、極端な話をすれば、廃校になるということが地域としては一番懸案事項といたしますか、残念なことというふうなことで、委員長おっしゃったように、分校制というふうなパターンを考えていただいてはどうか。

分校制といたしますのは、例えばですが、前山小学校には1、2、3年生、竹田の小学校には4、5、6年生という統合ですね。それと、吉見、三輪、鴨庄は、各2学年ずつを割り振っていく、そういう分校制というふうにすれば、多分、設備の増設とか増改築、そういうふうなものも要らないのではないかなと思います。

それと、校章、校歌ですね。それも分校で、そのまま使っていったらいいんじゃないかなということは、統合がものすごく早くなるだろうなど。そうしておいて、例えば、5年、10年先を考えて、市島町は、小中学校、同じところといたしますか、そういうふうな形に向かっていったらいいんじゃないかなと、私はそういうふうに思いまして、委員長のおっしゃる分校制というふうなことを提案させていただきました。統合のパターンとしてね。そういうことでございます。以上です。

(川上委員長)

ありがとうございます。そうですね、若干、私見ですけど、イメージしていただいた分校のパターンと、またちょっと違うものではあるんですが、子供を分散させるという一つの考え方なのかなとは思っています。

ただ、そうした場合に、どの学校という形で残していくのか。分校は継承すべき一つ学校があって、そこから分校が分かれる形のイメージなので、先ほど言った校名、校章、校歌の話だったりとか、どういう形でというのは、やはり調整は発生するものというふうに思うんですね。この辺の実現の可能性とかについては、追って事務局のほうからも少し御意見いただければというふうに思うところではあるんですが、実際に考え方の一つとして出していたいただいたのも確かかなというふうに御意見として承ります。ありがとうございます。

そのほかいかがでしょうか。

(委員)

もう少しよろしいか。皆さん御意見ないようなので、自分たちの子供がどのような環境で学ばせてもらえるのかなということを、やはり親御さんとしては一番気になるところじゃないかなと、私、勝手にそう思っております。

それで、ちょっとお願いなんですけど、各小学校の親子で見学会、その小学校を見学する。どういう設備でどういう状態で、今、学校があるのかなと、そのときに、ここはちょっと変えていかないといけないな、改修しないといけないな、改築しないといけないなというふうなことの見学会を、丹波市の教育総務課、ここ主導で一度、実施していただきたいなと思います。だから、父兄の方、参加する、参加しないは別にして、例えば、ほかの小学校を見たいなというふうな、そういうふうな見学会をしていただけないだろうかかなと思います。

それと、統合の場合に、今の状態じゃ、とてもじゃないが耐えられる状況でないところもあると思うんですね。そういうところの改修・改築、それが不要なのか不要でないのか、その費用はどのぐらいかかるんだというようなことを、ちょっとシミュレーションしていただけたらありがたいなと思いま

す。ここら辺のことを、できましたら、次回の委員会で御提案いただけたらありがたいかなと、そういうように思います。

(川上委員長)

ありがとうございます。改修・改築費用についての見通しについては、恐らく今、1、2、3の案が出ている中で、大まかなものについては、具体的な金額は出ていませんが、大まかなもの、どちらのほうが費用がかかって、どの案にすると費用がかからないかという部分については、今できる段階、今でき得るレベルのものとしては、出していただいているんじゃないのかなというふうに理解しているんですが、ちょっとより細かい話になると、統合とは別の話になる、統合で子供が増えるから、何かこれまで老朽化が進んでいるこの施設をというの、ちょっと統合の話は別の文脈になってしまうかなというふうな気もいたしますので、もし事務局のほうから補足がありそうでしたらと思いますが、どうですか。

(足立教育総務課長)

失礼します。教育総務課の足立です。今、川上委員長のほうから言っていたように、今日の時点で具体的な金額とか、そういったところをお示しできるものは、ございません。委員さんがおっしゃられるところで、確かに建築年度がそれぞれの学校で違っております。現在の学校を今後、そのまま維持していくということになりますと、やはり建築年度の古い学校から大規模改修というものが必要になってきます。それは、市のほうでは長寿命化計画というものを立ててしておりますので、今後、このまま使っていくのであれば、来るべき年度にそういった改修をしないと維持できませんよというふうなものは持っておりますが、今、それがいつ頃あつて幾らぐらいかかるかというのは、手元に持っておりませんので、また次回等であれば、計画書に示しておるものは出せる、金額は分かりませんが、年度ぐらいいは出せるというふうなものでございます。

それと、今回、統合の議論をしていただいている中で、施設の改修というか、校舎の改修とは別に、遠距離通学の支援がどのパターンをとっても出てくるわけで、校舎そのものは要らなくてもバスが停められるようなバスロータリーを設けないといけない、そういった改修は必要になる分はございますから、それも今、具体的に幾らというふうなものは持ってませんけども、そういうふうなところでございます。今回、お示ししているパターンとしては、後のほうの説明でも申しましたけど、あまり大きな改修というのは、今の統合では非常に厳しいものがあるというふうな説明でとどめさせていただきたいなというふうに思っています。

(川上委員長)

ありがとうございます。私はプロではないんですが、例えば、2案で施設のほう、増改築が必要ですよというパターンと、増改築する建物が普通教室なのか特別教室なのかだということですね。今あるもの、今ある特別教室を普通教室に転用して、特別教室を新しく準備するという形になるのか、そこ、普通教室を準備する形にするのかだったりとか、あと、時限的なものなので、例えば、プレハブで対応するという形をとるのか、選択肢が幾つもあつて、何か一概にこの額ですというの、なかなか出せない状況というのがあるのかなと思います。

ただ、額の上下はあるんですけど、1案が一番お金がかかるんですね。次にお金がかかるのは2案で、3案というのが、最もお金を要しない、逆にいうと、時間も要しない。だから、早くという要望には応えやすい。今の話でいうと、3、2、1の順で時間はかかります。1、2、3の順でお金がかかりますというふうな分布をしているのかなというふうなことを大ざっぱに御理解いただいた中で、お話を進めていただくのがよろしいのかなというふうに思っております。

いかがでしょう。どうぞ、お願いします。

(委員)

お世話になります。前の話でいうと、ドライに考えたら3でいいのではという話に多分なると思うんですけど、多分、そこはそれぞれの意見とか思いとがあるんだろうなと思います。できるだけ早くというのもそれぞれの思いがあると思うので、ただ、竹田小学校、前山小学校という統合については、私は別に賛成なんですね。一番後ろを言うと、前山小学校と竹田小学校で、前山小学校のほうが新しいから、施設的にいいのではというものです。

なんですけど、前に聞いた話では、キャパシティがないという話を聞いたので、児童が入れないんだったら、そもそも仕方がないという話かなということちょっと思いました。耐震基準とかが足りなくて、子供に安全を確保できないとかというレベルだったら、そもそも、どちらにしろ改修しないといけないと思います。

もう一個、教育委員会さんがちょっとお話しされるかなと思ったんですけど、1、2、3と4、5、6を分けるというのは、すごいな、天才的な意見だなと思いました。そんなことを考えたことがなかったんですけど、ただ、多分、学校教育法とか、小学校って6年制ですよ。多分、6年生が1年生に教えてあげたりとか、多分、そういったつながりであったりとか、子供さんとして大事なんだろうなと思うので、いや、それはそうでもないんだよということであれば、そういう御回答を頂いたらいいかなと思うので、私はプロではないんで、ちょっと私はそういうふうに1年生で入ってきたときに、やっぱり6年生と、高学年が同じ学校にいるということとかというの、やっぱり多分、運動会どっちですとか出てくるんですけど、大事なのかなというように思ったので、そこに対してはそういう意見を思いました。

あと、もう一個だけ、すみません。統合時期なんですけど、最短で令和5年、令和6年というふう書いてあるんですけど、逆に令和5年でできるかどうかというところをちょっと聞きたくて。令和5年でできるというのであれば、逆に、そこまでの目的を決めて、スケジュールを組んだほうがいいと思うんです。できないのなら、逆に令和6年って言うってしまうほうがいいのかなと。だらだらだら話をしたら、令和6年になりましたみたいな、多分、今の話だったらありえるんですけど、それだったら、今の話でいうと、もう3にしてしまっって、令和5年に統合したらというふうに私は思うので、その辺り、ちょっとほかの方の御意見もあると思うので、そういうようなことで今、思っております。すみません、以上です。

(川上委員長)

ありがとうございました。そのまま御意見伺いますか。それとも、事務局、何か補足をされますか。

(足立教育総務課長)

足立です。ありがとうございます。今おっしゃっていただいた高学年と低学年に分けるとかいうのは、今、委員さんおっしゃっていただいたようなところももちろんございます。いろいろな課題があったりメリットがあったりだと思いますが、今日、お聞きした中で、すぐにどういったところが課題であるとかというの、なかなか全てを申し上げることはできないかなというところでお許しいただきたいと思っております。

それと、統合時期のことで、令和5年または6年というようなところですが、今おっしゃったように、会を重ねて議論をしていくことで、令和5年を逃すということは、もちろんそれはあります。いつまでというのは、特になににしても、令和5年を目指していただくのであれば、年内ぐらいに一定の結論は必要で、なおかつ、先ほど説明したように、校名を変えないとか、そういう制約の中で早期の統合を図ることは可能だというふうに思います。

ただ、今、一例として言ったんで、だから議論を早めてほしいと、そうい

うことでもございませんので、時期を大事にするのであれば、少しスピード感は要るのかなというところでございます。以上です。

(川上委員長)

ありがとうございます。統合について考えるというふうになると、新しい学校のお名前をどうしましょうかと、校章をどうしましょうかと、校歌を新しくしますかというようなことなんか、それなりのやっばり時間がかかってしまうというところがあるかなと思います。案によっては、そこに施設改修だったりとか場所決めだったりとかというのが上乘せされてくるので、どんどんどんどん時間がかかっていくということになりますが、どの辺りまでどうするかで見切り発車の程度が変わってくるんですね。

完全な通学支援策を決めてしまうのか、当面、この案で行って、正式な通学支援は時間をかけますというようなことをスケジュールに組み直すことで、ひとまず統合の時期というのを調整するというのはできることになるかなというふうに思います。その辺、幾つか保障があるかな、私見ですが、思っているところです。御意見ありがとうございました。

お願いします。

(委員)

すみません、私は、校名とか校歌とか校章とかって、大事かなとちょっと思っていて、別に大事やという話だったら別にいいんですけど、大事の前の小事というか、何で令和5年と令和6年と私が思うかという、前山地区が4歳児が4人ってなっているから、その辺りを意識しないといけないと私は思っているんです。別に前山地区は大丈夫という話なんであれば、別に、逆にどこまででも延ばしてもいいと思うんです。鴨庄地区は、既に複式になっているって話もあったと思うんですね。いやいや、別に1年生のときだけは、別に4人でもいい、統合が令和6年度でもいいと思うのですが、子供のことを考えて統合しようぜっていう話になっていると思っているんですね。そうなったときに、子供の教育を置いて、校名とか校歌とか校章とか、関係あるんだろうかと思うんですね。

なので、そこよりも大事な部分を見てほしいなというふうに思っていて、私は、この人数を見て危機感を覚えているというのが一番です。ただ、皆さん違うと思います。価値観として残したほうがいいのか、いろいろあると思うんですけど、そこはちょっと私も前山地区じゃないのにいろいろ言うのもどうかなどは思っているんですけど、私はちょっと価値観としては、そこは結構、気にはなるなって思ってます。以上です。

(川上委員長)

ありがとうございます。いかがでしょう。そのほか、どこを大事に考えていきたいかという部分の話が出てきましたが、先によろしいですか。

(委員)

事務局の方にも非常に分かりやすくヒアリングをまとめていただいて、資料を作ってください、ありがとうございます。私を感じるに、いろいろな意見があると思うんですけど、5校から2校というのが増設をしなければいけないことで、時間がかかるという。そうなってくると、増設したけど、2クラスの入れる、2校目の吉見・鴨庄というのが一緒になったとき、教室を確保できたものの、できたけど、しばらくすると、使用は1クラスだけで必要がなくなってくる、何かちょっともったいなく感じることで、正直、3だけの案がベストかなと思うとったんが、ちょっと無駄になってしまうのが、ちょっともったいなく感じたので、今の3番目に5校から3校というのが、先ほどいいんじゃないかなという感じで挙げていただいた中で、私も段階的に行くのなら、少しでも早い統合をすべきということだったので、5校から3校で一度、話を、意見し合ったらなと思います。

結構、小学校3年生以下になると、前回のヒアリングの資料で頂いたら、

男女の偏りも非常に目立ってきてるなと思って。前山小学校で男の子が1人で女の子が7人だったり、鴨庄小学校の2年生で女の子が1人で、男の子が8人の中に女の子が1人、そういうどうしようもない、1人になってしまうというかわいそうな現実が出てきてるので、もし早急にということで、5校から3校が早く実現できるのであれば、できる方法を最初に、5校から3校の検討という形の準備をしていけたらなと思います。

(川上委員長)

ありがとうございます。続けてお願いしてもよろしいですか。

(委員)

失礼します。出た意見、積んでいけたらいいんですけども、少し、まず、委員が言われた分校制について、学校を運営する側から思いつく、今の段階での課題ですが、やはり保護者の身になってみますと、低学年と高学年の兄弟を抱えておられる家庭なんかは、兄弟でどっちのバスに乗るのかなど、非常に複雑な感じがしております。じゃあ、参観日は同じ日にするのか、それとも別の日にするなら、その方は二度、お休みをとらないといけない。また、学校としても、行事が倍になっていくといったような、運営に煩雑な面が出てくるなということが課題であるというふうに思います。

かといって、課題を申し上げているだけで、その意見に反対するわけではございませんので、ここは御容赦ください。

そして、今、金銭面、話は変わるんですけども、金銭面のお話もあったんですが、人数も非常に課題であるなというふうに思います。例えば、5ページの統合後の人数を見ますと、統合のパターンで、吉見、鴨庄、三輪とある、このパターンのところに、赤が二つ、青が一つで、黄色が二つ。つまり、人数が多いということでございます。現行で行きますと、赤のところは2クラスになるんですけど、今、令和4年の話は出ていないんですけど、令和5年にこの緑の40人が、今の吉見小学校の教室、実は小ぶりなんですけど、使っている机が、果たして入るかなど。たとえ入ったとしても、このコロナ禍がいつまで続くか分からない中で、40人を一部屋に閉じ込めておくということについては、運営する側としては、非常にリスクが大きいということを申し上げておきたいとします。また、教科を進める上でも、ある程度の机の間隔は必要でございますので、そういったところも一度、精査をしていただく必要があると思います。

言いたいこととしては、人数が多過ぎるということも勘案すべき事項であるということでございます。以上です。

(川上委員長)

ありがとうございます。もう一つ重要な御指摘だったかなというふうに思います。

いかがでしょう。ほかに御意見ありましたら、ぜひ寄せていただけたら。お願いします。

(委員)

すみません。着座にて話をさせていただきます。正直、私もこの資料を見まして、この4ページの3番、かなりスムーズに進むのではないかなというように、いたって、1、2、3からでも、かなりシンプルでいいなというのが率直な思いです。ただ、三輪小のPTA、私個人的な意見として、三輪小の意見ではなく、個人的な意見として言わせていただきますと、このパターンで行きますと、恐らく三輪は、後々、またどこかに入っていく形になるんでしょうね。そうなったときに入りにくいというのが想定されます。

ただ、今までから話があります3ページの2番の2校のパターンになると、1番のパターンと同じように時間を要するというので、正直、どうしたらいいんだろうというようなところで、スムーズなのは確かにこの3校なんですけども、私の個人的な思いとしては、何か後から入りにくいという

思いもありますし、ちょっとどうかと。やるのであればやる、やらないのであればやらない、はっきりしたいなというのが本音です。以上です。

(川上委員長)

ありがとうございます。お願いします。

(委員)

皆さんどこまで確認が行っておるか、確認なんですけど、段階的と言われておるので、ということは、いつかは一つになるということは、どの地域の方も、それはもう承知されているのかなというふうに思うんです。ということは、どこかで自分の学校が消えるというような話も今あって、段階的に減らしていくのか、いやいや、できるだけ最後の最後まで残す、自分のところは複式になっても何とか残すみたいな形で、今言った五つが三つになり、二つになり、やがて一つになりということをおっしゃられるのか、いや、この先何十年も学校があるというふうには思わない、どこかで統合することをお考えたときには、そういう消極的な統合の仕方ですと、今のどこかの一つの学校に入っていくんだらうなと思っています。

コロナのこともあって、もっといい学校を作らんと、市島でこんな学校を作らんと、市島の子供たちをこういう環境で学ばしたいんだというような思いがあるんだらうと、ある程度、10年先には一つにする、その間に財政的ないろんな準備をして、ただ、その間、10年間の間に段階的に統合するんだということになるのであれば、そんなに校名とか校章にはこだわらなくていいと思います。そういうふうに向かっていくのであれば、そんなにこだわることはなくなっていくのではないかと、私はそういうふうに思います。

(川上委員長)

ありがとうございます。いかがでしょう、御意見、そのほかにも頂ければというふうに思います。

先ほど来出ている部分でいうと、統合することでどういう教育状況を良くすることにつなげていこうかという観点は、やっぱり大事だと思うんですね。単に数合わせの問題ですというふうに考えるのではないのが非常に大事です。

そういう意味では、今回、まとめている資料にも実は出ているわけですけど、5校を1校案というのは、小中の連携というのを非常に意識したものになります。2校案の場合は、幼小の連携ですね、こども園の設置範囲と小学校の設置範囲というのが一致していくことになるので、この間、お話を各地区で伺っている中でもちらほら出ていた、子供たち、せっかく一緒にこども園でやってたのに、小学校でばらばらになって、中学校で一緒になる頃には、もう何か、そんなでもなくなってる感じというのはもったいないなというような御意見、幾つか頂いていたと記憶しているんですが、そういう意味で言ったときに、幼小のつながりを大事にしましょうという教育上の特色を出していくとか、力の入れどころを作っていくということではあるのかなというふうに思って、案のほうを見ております。

何か意見出てくるといいなと思いつつ、つなぎでしゃべっているんですけど。こういう特色ですね、何かぜひ何か案をしていただくといいなと思いますし、ほかならぬ子供たちの教育状況について考える中での今回の議論というふうにお考えいただいて、何かそのほか、意見を頂ければと思うんですが、いかがでしょうか。

この間のやりとりで、事務局のほうで何か補足が必要かなというようなもの、ありましたら、情報提供いただければと思うんですけど。

(足立教育部次長兼学校教育課長)

失礼します。学校教育課の足立と申します。教職員の指導等を預かっている部署でございます。委員から頂きました、統合せずに前山小学校と竹田小学校に低学年、高学年分かれる分校制というふうなところの話だったと思い

ます。吉見小の校長からも保護者目線でどのようなことが懸念されるというお話もあったと思います。その場合、例えば、前山小の校長、竹田小の校長と2人の校長先生がいらっしゃいますので、卒業証書は一緒の学校で卒業するんだけど、学校長は違うとか、そういうふうな制度面でもかなり難しい面があると思います。

また、もしそういう面をクリアにするということで、統合をして、一つの学校として、ただ、二つの学校を残すということで低学年と高学年に分かれて学習をすることを考えると、学校長1名、教頭名1名、事務職員、養護教員の1名というようなことになってきますので、やっぱり事務的な部分、安全な部分で、かなり難しい部分があるかと思っています。

また、最近、低学年、高学年またいで学習を一緒にするような教師もたくさんおられますので、そのような教師がどのように配置するかということも、どちらのパターンにしても難しい面が、学校の教職員の立場から考えるとあろうかと思っています。制度上、そういうことが可能かどうかということは、今、資料がございませんので、今日、回答は控えさせていただいて、またちょっと調べてみたいなと思っています。今、思いついたこと、話をさせていただきました。以上です。

(川上委員長)

ありがとうございました。これまであった分校の形、よくある昔からの分校の形でいうと、学年を明確に切るというよりは、低学年が分校に行っていて、何か高学年になると本校に集まりますというようなパターンというのはあり得たかなというふうに思うんですが、これ、先ほど御紹介した1、2、3案のメリットの話とかぶってくるんですけど、自宅から近いところに低学年を通わせましょうというので、分校をイメージすると、幼小の連携の良さはどこへ行ったみたいなお話になりかねないんですよね。

幼小で子供の集団がつながっていることを良しとして、そこに価値を見出して学校の再編をしていきたいと思います。なんてことをもし考えるとすると、低学年をばらばらにすると、その良さはやっぱりどこかに行ってしまうということになるので、この辺、幼小のほうがちがって、逆に近いところで、元のところに子供を通わせたいなという思いの部分と、子供の集団がばらばらになることなく、一緒になるといいなというところは、かち合ってしまうということになるので、これまでの何か分校のスタイルというようなものを考えた再構成というふうになると、どっちをとるのというような話になってくるのかなというふうに今のところ理解をしているところです。

いかがでしょう。自由討議の時間として設定しておりますので、思うところをぜひお話しいただければなというふうに思います。お願いします。

(委員)

失礼します。3の案なんですけれども、竹田・前山、吉見・鴨庄、三輪だけ残すという案なんですけれど、こうなった場合に、同時進行で1校にするという動きはとられるのでしょうか。

(川上委員長)

事務局、その辺いかがでしょうか。

(船越教育総務課学校統合準備係長)

失礼します。学校統合準備係長の船越です。1校、3校を3にして、その先の統合を考えるかという御意見だったと思うんですが、そういった御意見は地域ヒアリングのほうでも出ていまして、先ほどちょっと説明させていただきましたとおり、1ページの統合の形態のその他の意見の中が、吉井委員の言われていることなのかなというふうに考えております。

ですので、段階統合という、当然、その先をどうするのかということは、この統合準備委員会では今後も引き続いて協議はしていく必要があるのかなというふうに、意見の中では、事務局としては考えております。

(川上委員長)

ありがとうございます。今の御回答でよろしいですか。

(委員)

すみません、もしそうなった場合、最短で令和5年に小規模で統合して、具体的な事項が決定してから、四、五年後かなというので、令和8年ぐらいに一つになるというようなことになるのでしょうか。

(川上委員長)

事務局、どうでしょう。

(船越教育総務課学校統合準備係長)

そういうことではなくて、もし今の段階で1校という選択をしていただくのであれば、統合決定から4年から5年かかると、新校舎建築等がありますので、そういうようなことで示させていただいています。もし段階統合、2校にされるのか3校にされるのか、先ほど委員さんが言われた分校、制度上できるのかも含めてなんですけれども、段階統合を選ばれた後に、市島地域として、今後、1校にしていくのか、また、どういう時期までに決められるのかどうか、ちょっと定かではないんですけれども、こういう状態になったら再度協議をしていくのかとかいったような協議もあろうかと思っておりますので、明確に、今の段階で何年と決めていただいてもいいと思うんですけれども、それが決まらないのであれば、そういった、どういった状況になったときに再度協議を持つといったようなことになっても仕方がないというか、それが一つのこの統合準備委員会の結論かなと思っております。

また、5校を2校にする、3校を一気に統合しようとする場合で、施設整備がない場合は、令和8年度以降にはなりますが、例えば、5校を2校にする中でも、さらに段階統合、例えば、具体的な話を出して申し訳ないですけど、鴨庄小学校を複式学級が現在も発生しているというところで、最短で令和5年度に統合して、そのときには、5校を3校ですけれども、その後、令和8年度以降とか、令和8年にこだわらずですけれども、その後、三輪小学校が統合していった、段階の段階という形で統合を進めていくというのもあるのかなというふうに考えております。

(川上委員長)

ありがとうございます。ちょっと立場上の話として、これまでのおさらいということをおきたいと思っておりますけど、これまでの議論の中で、委員の皆様のご合意を頂いていたのは、5校を5校のままにするという議論はやめようと。何らかの形で統合を視野に入れた検討をしましょうという、この1点だけですね、合意を頂いていて、その上でどういうパターンが考えられますかというところで各論に入っていったというのが現状かなというふうに思います。

その中で、今回事務局のほうで出していただいたのが三つの案だったわけですけど、恐らくこれ、ひとまずですね。そのひとまずの先が何年になるかということについては、恐らく別途議論が必要となるかなと思うんです。これが地域ヒアリングのまとめの中でも大きく書いていただいているんですけど、早いほうがいいですという意見、幾つも頂きました。早いほうがいいですという意見にまず対応しましょうという中で考えていくものとして、2校案、3校案というのが出てくるのかなと思っております。

その先、とにかく早く一定規模を確保しましょうという議論の先に、この状態をもっとしばらく続けますとか、割と早い時期に次の段階について検討しましょうという議論については、私の理解は白紙なんです。なので、そこについては、恐らく、できるだけ早くのニーズに応えた検討をする一方で、その先の段階をどうするかという議論は、並行して続けられないいけないものというふうに理解したほうがいいのかなと議論をまとめる立場としては考えているというところです。

もちろん、これはまとめる上での考え方なので、この進め方に対して、やはり次の段階についても早いうちに考えたほうがいい、それも議論に含めて検討すべきだという御意見も頂く分には、それはそれで貴重な御意見だと思いますし、そこに委員の皆さんのほうで、それがいいという御意見であれば、その後のお話ですね、施設整備を必要としない、できるだけ早くの部分のひとつまず着手しつつ、次の議論についても、じゃあ、継続して議論をしましょうという形になっていくわけなので、その辺は、ぜひ御意見として頂ければなというふうに思っています。

今お伺いした御意見を私なりに理解すると、ひとまずの統合の先についても、やはりセットで議論すべきではないかという御意見というふうに受け止めてよろしいですか。

(委員)

新校舎を建てるとか、5校を1校にする統合になると、4、5年かかると書いてあるので、また統合したほうがいいんじゃないかってなってからでは遅くなったりするのかなと思って、同時に考えていったほうがいいのかと思っていました。

(川上委員長)

ありがとうございます。この辺、将来像を含めての御意見ですね、当面の部分の御意見で、まだお話しただけの部分があれば、ぜひ頂きたいなというふうに思いますし、今のもう少し先の課題も含めて、御意見ありましたら、ぜひお伺いしたいなと思うんですが、いかがでしょうか。お願いします。

(委員)

言葉足らずのところがありまして、今だったらチャンスといたしますか、市島の教育を考えるとところから入って行って、市島の子供たちの教育環境をより良くということ、校舎とかは今までどおりの校舎で、小規模的に統合していくと、そんなにグラウンドも変わらないし、校舎環境も変わらない。だけど、今の段階で考えていけば、市島にこんなすばらしい学校を作りましょうみたいなことができるのは、待っていたら、結局、少なくなって一つになって行って、地域としてもあまり教育的なメリットがないというか、あるいは、若い人が市島に住んで、子供をこの学校に通わせたいというふうにはならないというか、今のままだと。今が悪いということじゃないですよ。一つのチャンスだと考えています。

だから、新しい校舎は、もちろん、新しい情報機器等にも対応するし、コロナなどのそういうようなものにも対応するような教室であったり環境であったり、地域の近くに里山があって、そこで遊べたり、こんな魅力的な遊具があって、ああ、こんなところいいなというふうにする、しようと思えば、今、これがチャンスなのかなというふうに思っています。ただ、それには時間がかかるので、いや、みんなでそれを目指しましょうということだったら、とりあえず、それが7年先とか8年先になるかもしれないですけど、そういうのを目指しながら、段階的に統合していくというのが私はいいかかなというふうに思っています。

だから、それを皆さんが目指すか目指さないか。今の暮らしの中の、地域の中の像であったり学校であったりというのが、できるだけ長い間今の形が続いたほうがいいのか、そういう感覚なのか、そこをちゃんと把握して、いつかはそれは仕方ないというか、新しい時代にはそれは仕方ないというふうに思うのか、もし思うんだったら、そういう理想的な学校を目指していったらいいんじゃないかと思えます。その中で、段階的な部分は考えていけばいいんじゃないかというふうに思っております。

(川上委員長)

ありがとうございます。個人的な見解を挟んで恐縮なんですけど、やはりこういう議論をする以上、新しい価値をどう乗せていけるかということについ

ては、ぜひ考えていただきたいなというふうに思います。受け身の統合議論ではなくて、先ほど申し上げたように、小中一貫の話だったりとか幼小の連携というのは、そういう意味では一つの価値になるのかなというふうに思います。市島の子供たちをどういうふうに継続的に育てていきたいと思いますかという新しい環境を構築するということに、学校のしつらえをどうしていきましようかという話になるかと思うので、この段階でお話しいただくのは、アイデアでいいと思います。

具体的な動きの中に、この過程で頂いたアイデアというのをどう盛り込んでいくのかというのは、また次の段階でやっぱり考えることで、この間、そういう御意見を頂いてないと、やはりどうしても受け身な議論が進むことになりかねないというふうに思っていますので、御意見、また引き続き頂ければと思うところです。いかがでしょうか。お願いします。

(委員)

すみません、何度も申し訳ないです。ちょっと個人的な話も入るんですけど、多分、5校を1校にするというのが設備が要するという話は、絶対そうだと思うんですね。ただ、今回の統合の話って、目的が、複式学級の解消があったり、子供が適正に勉強できたり、学べる仕組み、施設・設備とか、そういうところを整備したいなっていう話やったんじゃないかなと思うので、そっちに論点を置いたらいいのではないのかなと思うんですね。

ただ、5ページの数字で見ると、違う地区なんですけど、三輪地区とかは、例えば、さっき言われた令和8年に8人になる。また結局、そのときに統合しないといけないという話になると、今話してる方々からしたら、負の財産というか、置いてきぼりにすることになる。そのとき、また困ったときにまた考えたらいいのではないかという話に多分なると思うので、私の個人的な意見としては、もうこの後のゼロ歳以下って分かれへんと思うんですけど、去年、コロナでそもそも全国の人口って、出生数自体50万減っている、今年も多分減っているという中で、多分、何人いるかというのは分からないんですけど、恐らく同じ議論が多分、出てくるんだろうなと思うんです。

なので、個人的な意見としては、さっき言われたように、もし予算があつて、設備とか環境とか校名とかそういうのもあるのであれば、4、5年後に1校にするぞっていうことを念頭に置いて、皆さんの御理解もあると思います。嫌だと言われる方もいらっしゃると思うんですけど、進む方向としては、1校にすると思っておいて、ただ、やっぱりここから前山地区は4人になってから、青色がすごく多くなったりするので、今の段階的に、一緒に勉強できるところは一緒にしとこうね、ただ、最終的には1校になる、そうなったら、多分、2ページに書いてある、各学年2学級以上の規模となり、国の適正規模以上を満たすことができるっていうところまで上がれるんじゃないかなっていうふうに思います。

これは個人的な意見なんで、それぞれの、いやいや、取り残されたら嫌だとか、一緒になったほうがいいのかというのは、その地区によって違うと思いますし、別々で残したほうがいいんだというのもあると思いますので、そこは、それはそうだなと思います。ただ、ちょっと現実を見ると、私は個人的には、やっぱり複式とかが多くなっていくのではなくて、できるだけ情操教育にいい方法をとってほしいなっていうのが私なりの意見です。すみません、以上です。

(川上委員長)

ありがとうございました。ほかにはいかがでしょうか。お願いします。

(委員)

失礼します。先ほど、ちょっと私も意見を言わせてもらったんですけども、今、意見をおっしゃったように、私もやっぱりヒアリングの中でも言わせてもらいますが、着地点を先に決めたい。やっぱり着地点を決めないと、私

は何もできないかなと思いますので、例えば、先ほどおっしゃったとおり、この先、人口減少が顕著に出ていますし、このまま、例えば5校を2校にしてしまいますと、この先には必ず、また1校にという話は、間違いなく出てくるのではないかと、今の段階では想定されるのではないかなと思います。

そうしますと、この着地点としては、この1番の5校を1校にするパターンを候補から外した場合、少し前に、私が言いました意見ですが、この3番になった場合、三輪だけが取り残されるのではないかなというふうな心配があります。そこは、例えば、段階的に、着地点が決まっておれば、この3番でもクリアできるかなと思います。それまで三輪は我慢するといいますか、できるかなというふうな思いもありますので、まず着地点を決めたいなど、そこを決めないと、段階的な話も決めにくいのではないかなと思います。

(川上委員長)

ありがとうございます。少し具体的なというか、お話が出てきたかなと思うんですが、その他御意見いかがでしょうか。お願いします。

(委員)

先ほどからいろいろな御意見聞かせていただきまして、私は2案のこども園単位で幼小連携を目玉にして、新しい教育を目指していくというのが一番理想的だと思うんですが、いろいろと制約がある中で、3案というのが一番いいのかなと思っています。

現在、鴨庄小学校が複式学級が5・6年と一緒の部屋で勉強していますが、主要な教科は5年生、6年生分かれます。そうしますと、国語や算数は2人で勉強しています。それがいいか悪いかということなんですけれども、やはり多くの中でいろいろな考えを取り入れながら学習させてやりたいなど、日々それは思っています。

ただ、職員も頑張っておりまして、それを解消するような方法はいろいろと考えております。先ほどからの建物とか設備のことを言われますけれども、私はどちらかという、幼小連携を目玉にするんだったら、やっぱり人を育てる、子供だけでなく、親や地域も何かを変えていくというような地域でなければ、幾ら設備を投資したところで、何も変わらないと思っております。そういった意味で、先ほどから三輪の方々も置いてきぼりというような声が出ていますけれども、これは学校の経営上の問題だけで、どのように学校が連携して、足並みをそろえていくかということで、どうにでもなると思うんです。

ですから、可能なところを、まずは進めて、その後、またこども園の数もいろいろ変化があると思いますので、それに伴って、幼小連携というところで頑張っていっていいのではというふうに思っています。

(川上委員長)

ありがとうございます。今、施設上に制約があっても、経営上の連携でできることという御意見ありまして、個人的には私も同じようなことを思うところです。日がな一日一緒に暮らすという形は難しいとしても、一部合同で授業をやってみるとか、行事をやってみるとかという形で、子供たちが交わる場を作っていくというのは、施設統合だったりとか学校の統合というのを迎える前にやれることなんですよ。そういう工夫というのは多分、いろんな形で工夫の余地というのはあって、そういうことを併せて検討する必要はあるのかなというふうに思った次第でした。ありがとうございます。

いかがでしょう、そのほか御意見いただければと思いますが。お願いします。

(委員)

すみません、いろいろと議論していく中で、ちょっと自分の中で確認をしたい点がありました。2ページ目の期待できる効果の中で、国の適正規模の基準を満たすことができるというふうに明記されているんですけども、これ

を、基準を満たすことによって、どんなメリットというか、見返りというか、そういうのが何かあるのかなというところをまずお聞きしたいんですけども、いかがでしょうか。

(川上委員長)

事務局、いいですか。

(足立教育総務課長)

今おっしゃられた国の適正規模の基準が満たせることでの効果というかメリットは、多分、国のほうの適正規模・適正配置の方針の中でたくさん出てたと思うんですけど、一つは、複数クラスあることで、クラス替えができるというのが大きなメリットで、今、5小学校、あるいは5を2、5を3の場合は、そのことが単クラスになるのでできないというのは大きな違いがあるかと思います。

(足立教育部次長兼学校教育課長)

失礼します。学校教育課長の足立です。今、昨今求められている力というのが、未知の課題に対応するような力です。そのときにいろんな価値観の違う人と出会って、その人と価値観が違う、意見が違うわけです。ただ、その中でより良い解、納得解という言葉がよく使われるんですが、そういうものを見つけていくとか、多くの人がいればいるほど、また、多様な考えがあればあるほど、いろんな解を持って、豊かな人間、子供たちを作ることができる。それが将来、自分のつきたい職業、何か自分が困難にぶつかったときに、ああ、そうだ、価値観が違うけれど、この人たちと一緒にになって何か一つのことを、納得できるものを見つけていこうと、そういうことをするためには、こういった、国の基準を2クラスというふうに入れておりましたが、そういうようなことが大事とされています。そういう学び方を主体的・対話的で深い学びというようなことで、今、各校取り組んでいるところでございます。以上です。

(川上委員長)

ありがとうございます。よろしかったでしょうか。
いかがでしょう。そのほか御意見ありましたら。お願いします。

(委員)

失礼します。私個人的な考え方もかもしれませんが、一言だけお話ししたいと思います。私は、最終的には5校を1校、市島町で小学校が1校になる、それまでの過程として、5校を2校にしたり、5校を3校というのが順序立っていけるんじゃないかなと、このように考えます。ただ、また5校を3校にする場合でも、もっとほかにもやり方があると思うんです。竹田小学校を残して、前山と吉見と一緒にする、そういうパターンでもできるんじゃないかと。ですから、とりあえずは、最終目標を5校を1校に、それまでの過程として、できるだけ早めに複式学級とかいうのがなくなるような統合の仕方をして、5校を2校にするなり3校にしていくのがベターではないかなと、私はそう思います。

(川上委員長)

ありがとうございます。関連していかがでしょうか。よろしいでしょうか。ちょっと非常にありがたいなと思ったんですけど、恐らく次回に向けての話を考える上で、委員の皆さんにお諮りしないといけないことが出てきたなと思って、この間、議論を聞かせていただいております。

何かというと、ちょっとおさらいの繰り返しになりますけど、何らかの形で統合を考えましょうという御意見を頂いて、この話を今、させていただいてまして、ヒアリングの中では、なるべく早い時期に何らかの手をという御意見をたくさん頂いたということ、ここも共有できているかと思います。

一方で、今日、御意見を伺っている中で、皆さん全員がどうかということについては聞き切れていないわけですが、皆さんから御意見いただいている中

では、最終的な像と、ひとまずの手の打ち方ということについて、要は、二段構えることで、この先の進め方について検討すべきなのかどうかについて、ちょっとお諮りをしないといけなくなってきたかなと。最初に、最初の最初の段階で頂いたのは、将来像がどうこうとか大きな話ではなくて、ひとまず何か手をつけましょうというところで、皆さんの了解を頂いたものとして進めているわけですが、いかがでしょう。

今ちょっとお伺いしたいところで、ひとまずの手の打ち方と将来的な像の二つを構えて議論を進めていくのが必要なのかなと思って、今、皆さんの御意見を聞いていたところなんです、この進め方に関して、何か御意見、そのほうがいいのかというのと、ひとまずでいいという御意見、また別の意見も出てくるかもしれませんが、ちょっとこの進め方に関して、少し御意見伺いたいと思うんですが、いかがでしょう。何かお考えあれば、ぜひお聞かせいただきたいと思います。お願いします。

(委員)

もちろん、今言われているように、最終目標がどこかということを考えて、次のことを考えていってほしいんですけども、時間がないことも、同じくらい大事に考えたい。最終的な理想的な学校像という、それを考えていく必要は非常にあるんだけど、それをものすごく中心に考えてしまうと、スピード感を持って今の現状に対応しようとしていることは緩まってしまうと思います。絶対最後のところはこの形にしていくんだというのは、もちろん作りつつ、だけど、現状としてはやっぱり統合を迅速に進めていくということは必要じゃないかなと思っています。以上です。

(川上委員長)

ありがとうございます。ひとまず現状、最初の一手としてどう打つかということ優先してはという御意見と伺いました。いかがでしょうか。そのほか御意見があれば。お願いします。

(委員)

やはりこの会で5校を1校の、例えば具体的にどこまで具体化するかということなんですけれども、私の思いとしましては、この会でその二つを同時進行するのはなかなか難しいんじゃないかなと思います。まして、一つにする場所を決めるということについても、非常に、すぐには決まらない。かといって、それが決まらなないと、今のことに手をつけられないんだよという縛りをつけてしまいますと、スピード感がなくなるということも言えますので、ある程度、どこまで基本的に、最終的に1校にするということは必要だと思っているんですが、それをどこまで具体化するかということが課題かなと思っています。以上です。

(川上委員長)

ありがとうございます。おっしゃるとおりで、こちらを優先させてしまうと、ヒアリングの中で出てきた、できるだけ早くから遠ざかりかねないという意味では、ここにお答えするというのも大事な観点かと思っております。

そのほかどうでしょう。進め方について御意見いただければと思いますが、今のところ頂いているのは、この進め方についてお伺いしたところでは、まず最初にどういう手を打つかということについて、少し優先して話をするべきじゃないかというような御意見を頂いてたかと思いますが、その前の段階では、一定程度の着地点というか、像を持っておきたいという御意見も頂いていたかと思っております。

そういう着地点像を持った中で進みたいという御意見をお持ちの委員さん方いらっしゃいましたら、ぜひ、ちょっとどの程度のものかということについて御意見いただくといいなと。いつまでにどこに、どういう名前でというような細かいところまでを前提と、着地点として想定されているのか。次の段階で1校というのを考えていたほうがいいですよっていう、具体像は

別として、行く行くは1校ですよという水準のものですよね。どれくらい粒の細かいものを想定するかという違いになるわけですけど、もしよろしければ、その辺、どういう辺りを想定されているかという御意見を頂ければと思うんですが、いかがでしょうか。お願いします。

(委員)

これまでから議論してきました、この地域でどんなふうな学校が良いだろうかというのは、いろいろな不安もあると思うんです。そういうものを基にして、こういうふうな形だったら理想的なものがあるんじゃないかという辺りなどをここで出していただいて、最終、そこになっていくよということについては、皆で共通理解しながら、今現在の課題にかかっていけばいいのかなと思ってるんです。その時期をいつにするかということになってしまうと、また限定することが出てくるかなと思いますので、そういう話になることは時期尚早と私は思っているんです。ただ、自分自身としては、せっかく7年かかって作ってきた経緯を踏まえて、市島地域としてこのような学校を作るんだっていうのは、やっぱり必要だと思ってるということです。

(川上委員長)

ありがとうございました。そのほかいかがでしょう。進め方について御意見いただければ。お願いします。

(委員)

いいと思うんですけど、もし、この1と2と3だけで考えたときに、3にするってなったときには、やっぱり三輪の方々の、竹田と前山、吉見と鴨庄、三輪っていうような、ちょっとまた、それは別案で出たんですけど、もしこの3番の案で進みたいなどなるのであれば、三輪さんとしては、多分、立ち回りがすごく難しいじゃないかなと思うんですね。

というのは、いや、いつまでこれが続くか分からないという話のまま、多分行くと思うので、三輪地区の方からしたら、いやいや、絶対少なくなるんだけどなというのはありながらも、そのうち多分一緒になるかなみたいな感じが進むので、そこだけは、今、ここで三輪さんの方の意見を聞いて決定したらいいとか、そういうことではなくて、そこはやっぱりめっちゃ大事なかなと思うんです。

もちろん、入るってなったとしても、先ほど、吉見小学校のキャパシティが足りないとかという話があったので、この2案についても、お金がどれぐらいやとか幼小連携っていうのを新しく目玉として出したらいいっていう意見もあったから、もしそのお金をかけてでも何かできる、それなりに子供にとっていいことができるんだったら、それも一つ、案として入れても、私はいいなと思うので、そうなれば、逆にいえば、1校とか言わなくてもいいと思うんですね。

でも多分、5を3にしたら、多分、三輪、この形でやると、多分三輪は、そのうち、うちはいつ一緒になるのかなっていうのは疑問で最後まで残って、じゃあ、後については考えましょうっていうふうになると思います。

(川上委員長)

ありがとうございました。三輪の委員の方に聞くのはありですか。お願いします。

(委員)

先ほどもちょっと言いましたけども、この5校を3校にするという統合の仕方ですね。ここに三輪だけ、いうたら、ちょっと外された。ずっとここ、今、0歳児から小学校6年生までの人数、各学校で言ったら、竹田小学校も三輪小学校も、人数的には変わりません。だから、竹田小学校だけのことは別に構わないと私は思うんです。そして、前山小学校と吉見小学校が一緒になり、鴨庄と三輪と一緒にしても構わない。やり方が、先ほど言ったように、5校を3校にする方法でも、やり方はいろいろあると思うんです。こ

れでないといけないというのは、どこか出てくるんですか。これでない駄目だというの。

(川上委員長)

この辺、事務局、お願いしてもいいですか。

(船越教育総務課学校統合準備係長)

すみません、学校統合準備係長の船越です。これではできないということはないんですが、ヒアリングを各校区回らせていただいた中で、こども園単位での統合という御意見が多くございましたので、この統合、5校を2校にするパターン、5校を3校にするパターンで、示させていただいております。今言われるように、それは無視してというか、そういうことではなくて、今、委員さんおっしゃられた統合を望まれるのであれば、それも一つの案かなとは思いますが、一定の流れはヒアリングを終えた段階では、こども園単位での統合というのが多かったかなということで、このくりにさせていただいたというようなところです。以上です。

(川上委員長)

ありがとうございます。もう1点、教室サイズの話が出てませんでしたっけ。教室サイズの話って、特段、このお話とは関係ないですか。あまり関係ないですかね、失礼しました。分かりました。

こども園単位でのというのが優先するとか、御意見が多かったのかということで、こういう案だという御説明でした。お願いします。

(委員)

今、こども園単位でっていう話やったんですけど、もしそれをちょっと例えば除いたとして、鴨庄と三輪って、そもそも多分、ちょっと吉見を挟むので、やりにくいんじゃないかなとは思ったんですね。それは、いやいや、現実的に、物理的な話でどうかかなと思ったのと、ただ、それだったら、さっき、竹田と三輪は学校規模があまり変わらないと言われたので、見ていたら、確かに竹田と三輪を並行してずっと1校ずつ残して、前山と吉見と鴨庄を一緒にするという3校もありなんではないかなと思っただけで計算したんですけど、多分、その上の学年は変わるのかもしれないんですけど、例えば8年度から行くのであれば、その3校が統合しても恐らく35人を超えないのではないかと思います。

その後超えるという話になったら、それもありかなと思います。全然違う話になって、時間かかるので申し訳ないんですけど、せっかくなので、いろいろ案があったほうがいいんであればという思いでした。

(川上委員長)

ありがとうございます。1点、これは委員の皆さんがどうお考えかというところによるわけですけど、この間、お話をいろいろ聞いている中でいうと、やはりこども園で作った人間関係がばらばらになることについての御意見というのは幾つか頂いていたやに記憶をしております。そういう意味でいうと、数字上の統合パターンというのは、もちろん幾つも考えられるわけですけど、子供のつながりを何とか生かしてあげたいというようなことを大事にしようと思うと、おのずとパターンについては幾つか定まってきちゃうようなというふうに理解するのがいいのかなというふうに思いますし、あと、これもちょっと余計な話ではあるんですけど、こども園から小学校のパターンってあまりそういう話が出ないんですけど、例えば、都市部で小学校から中学校のつなぎのときに、やっぱり一つの小学校から二つの中学校に分かれて進学するとか、あまりいい言い方をしないんですけど、又先学区とか言ったりするんですけど、これ、小学校、中学校で何か教育上の連携をとろうとしたときに、非常に難しくなったりするんですよ。一つの小学校から次の中学校につなごうというときに、つなぐ先がばらばらになったりとか、中学校は中学校で、それぞれのスケジュールでやりたいことで動かれようとする

というところで、難しい。

そういう意味では、幼小のつなぎを大事にということですね。教育上の効果として、そういうところを狙おうとすると、パターンについては、ちょっと限定されてくるのかなというようなイメージを持っておりますが、この辺は、それ以上に規模としての収まりを優先するんだという考え方もありますので、それも一つの考え方かなとは思いますが、こっちのまとめる立場というよりは、ここの識見を有する者の立場でいうと、そういう議論が小学校、中学校の間で起きたりとかというのが、教育上の話として出てきていますよということを、ちょっと情報提供させていただければと思います。

いかがでしょう、進め方について事務局お願いします。

(船越教育総務課学校統合準備係長)

すみません、統合準備係長の船越です。先ほどから吉見小学校区、三輪、竹田小学校区の保護者の方の意見がたくさん出ているんですが、ちょっと今見てますと、前山小学校区と、あと、鴨庄小学校の保護者の方の意見がちょっと、実際の当事者としてどういうふうに思われているのかなというところ、強制ではないんですけども、ちょっと聞きたいなど。どちらの小学校区も今、対象がその2校にまたがってる中で、強制ではないので、今の段階で何もなければいいんですけども、そういったところをちょっとお聞かせ願えないかなというふうに考えておりますので、よろしくをお願いします。

(川上委員長)

ということなのですが、いかがでしょう。もしよろしければ、御意見いただければと。お願いします。

(委員)

すみません、失礼します。校区は鴨庄になりますが、今までずっと意見を聞かせてもらっていて、いろいろな意見があるかなと考えてます。鴨庄が一番人数が少なくて、これからの令和3年1歳児になると、4人とか1人とかになってくる全体があるんです。

親の立場から考えた場合、子供の立場から考えた場合、1人で行かせるのは、ちょっとなかなかハードルが高いといいますが、それはちょっと考えてしまうかなという現状の数字なんです。できれば、もう本当に鴨庄としては、早く統合してほしい。本当を言えば、こども園校区で一緒に行ければ、こども園の友達と一緒に小学校に上がれるというのが一番理想だと思います。そこを何とかできれば、一番いいかなと思います。

その後、年々人数が減ってくるわけなので、最終的には、一つに校区を据えて、小学校のほうを考えないといけないと思うんですけども、2ページにありました5校を1校にするという案で、小中一貫校というふうに書いてありますので、小中一貫校になると、中学校の話が出てくると思うんです。中学校と一緒にするか、場所を一緒にするかと、そういったところの話も出てくるので、そこまで考えますと、この1歳児の子が5歳、6歳になってしまうんです。小学校に上がる前ですね。そうすると、やはり、それはちょっと大人が足踏みし過ぎて、子供に影響が出てくるんじゃないかなと思いますので、できれば早めに、段階的には進めてもらって、1校にするのであれば、その話を進めてもらいたいかなと個人的には思います。以上です。

(川上委員長)

ありがとうございます。お願いします。

(委員)

すみません、同じような意見になるかもしれないんですけど、やはりちょっと将来的に考えたら、1校というのは理想だとは分かっているんですけど、そこを目指すのはいいことやだ思うんですけど、やはりスピード感、鴨庄小学校にとっては死活問題になってくる話だと思うんです。

そう考えると、やっぱり今できることというのをスピード感を持ってやる

ということが大事でないかと思うのと、例えば、子供のことを考えると、子供にどうしたいって聞いたときに、恐らく、一緒に上がりたいっていう意見が当たり前だと思うんですね。そう考えると、やっぱり幼小連携というのを大事にして、できることを早くスピード感を持ってということが大事やと私は思います。

(川上委員長)

ありがとうございます。続けてお願いします。

(委員)

よろしくをお願いします。先ほどから話をされているように、最終的に5校を1校にするっていうところは、私も個人的にはそうなるのかなっていうふうに思っていますので、最終的にはそうなるのかなと思っています。それまでの間にどうするかというところを、この会で決めるのかなというふうに思っていますので、割と今回、提示された資料というのは、何かイメージどおりの資料なのかなというふうに感じました。

あと、ちょっと1点、あまりこの質問に関係ないかもしれないんですけど、児童数に対して先生方の人数ってどれぐらいに実際なるのかなっていうのが、何か決まりとかあるのかもしれないんですけど、それがあれば、質問のところで出ていたように、教員の目が行き届いた教育をしてもらいたいというような意見もあったようなので、そこはちょっと知りたいかなというふうに思いました。以上です。

(川上委員長)

ありがとうございます。教員の数については、事務局いかがですか。

(足立教育部次長兼学校教育課長)

失礼します。学校教育課の足立です。教職員の数なんですが、教職員の定数というのが決まっておりますので、これは致し方がないルールというふうになります。児童数、1学年について40人までについては、教師が1人というふうになってございます。ただ、5ページにあります一番下の数に、35人となる学年というふうに書いてあります。今、文部科学省のほうで、40人学級を35人学級に移行していこうというようなことをされておりますので、今、35人で1クラスというふうになっていきます。ということは、35人を超えれば2クラス、先生が2人つくというような計算で考えていただければよいかというふうに思います。

普通ですと、1年生から6年生まで1クラスずつですと6名の担任の先生と、それと、専科教諭、音楽、家庭科等を今、指導されている先生が1名、あとは、養護教諭、それから事務職員、教頭、校長というのが、あと、特別支援学級がある場合は、特別支援学級に1名ずつというような形での配置が普通の配置というふうになってございます。また疑問がありましたら、お答えいたします。

(川上委員長)

ありがとうございました。いかがでしょう。そのほか御意見いただければと思いますが。よろしいですかね。

そうしますと、改めてなんですが、やっぱり2段階目を少し、具体の具体ではないんですけど、イメージしながらの形でも、1段階目の姿について、次、皆さんの御意見を頂くような形になっていくのかなというようなことを思っているんですが。お願いします。

(委員)

最後に一つだけ、私、引っかかっているところあり、胸がつかえています。幼小連携教育というのは、私、賛成です。それと、市島町で小学校を一つに固める方向というのは、もう10年、15年先の話じゃないかなと思います。私たちは、ひょっとしたらもういないかもしれません。そういうことと、5校を2校、5校を3校のパターンの中で、想定される統合場所、これは竹田

小学校、吉見小学校というのは、まだこれからの話ですよ。まだ決定しとるわけじゃないですよ。

(川上委員長)

決定というか、これ、想定するパターンなので、あくまで事務局が考えた1案という位置づけになります。

(委員)

事務局の、ちょっと思いを聞きたいですね。

(川上委員長)

事務局、よろしいですか。

(足立教育総務課長)

教育総務課の足立です。今、委員長に言っていただいたように、これ、決定事項でも何でもありません。今、事務局として想定するパターンの一例として挙げさせてもらってるんですが、竹田小学校、前山小PTAで一つにする場合は、教室の大きさの関係で、前山小学校、少し小さな教室になってますので、これは竹田小学校に行くほうがいいだろうなというところから、こうしている。

それと、吉見、鴨庄、三輪の部分につきましては、吉見小学校が地理的にもその3校であれば中心になりますし、校舎としても直近に耐震を行っているというようなどころから、ここがいいんじゃないかなというところで、想定のパターンは作っております。以上です。

(委員)

これ、5、6年先を見据えての想定ですよ。20何人になったときの。

(足立教育総務課長)

5、6年先といいますか、早い統合というのも一つの御意見として出てましたので、令和5年、あるいは令和6年を目指される場合ですと、ここ一、二年の話ですので、少し多い人数のところも出てくるというところでのパターンです。

ですので、これも、何も今、決まっているものではないので、御議論はどんどんしていただきたいというふうには思っております。

(川上委員長)

ありがとうございます。いかがでしょうか。お願いします。

(委員)

すみません、いろいろな議論の中で出てきてる話で、何かほぼ、いずれ5校が1校になるという方向の話が、結構出てきていて、最終、そうなるかもしれないんですけども、まず、幼小連携教育にウエイトを置くのか、いきなり小中一貫教育にウエイトを置くのかというところの、まずその方向性を決めて、段階的な統合がいいのかなと個人的には思っているんですけども、その辺りが今後ちょっと議論が必要じゃないかなと思います。

(川上委員長)

ありがとうございます。今のお話だと、最初の一手から次に向けての時間をどれくらいとるかというようにお話で引き取ってよろしいですかね。というのは、2案の場合でも、令和8年度以降であれば、改築・増築なく5校から2校の統合ができる。そういう意味では、幼小連携を大事にするというのであれば、将来的な1校というよりは、ここで言うと3案から2案への移行というやり方もあると思うんですね。ひとまず3案でしておいて、改築ができそうにないというのであれば、令和8年を待って2案ということに移行して行って、幼小連携を大事にしていくというゴールというか、当面のゴールという話ですね。

というふうにするのか、小中一貫を大事にしたいというのであれば、多分、3案でスタートするというのが一時的な形で、1案ですよ、1校統合に向けての検討というのをしていきますと。そうすると、小中連携、小中一貫と

いうのを大事にした統合のイメージになりますということになるかなというふうに思うんですね。

多分、その辺の段階部分を見ていくかですね。ひとまずの完成形という言い方でいいのか分らないですが、ひとまず落ち着く形というのを幼小連携を大事にして2校というスタイルにしていくのか、小中一貫を大事にした1校というのを最終的に落ち着きどころというふうにしていくのかの違いという以下の引取りでよろしいですかね。ありがとうございます。

この辺いかがですかね。御意見いただければ。次回、このまま議論が出尽くすようであれば、次回にでも皆様の御意向を聞けるような形がとれるかなというふうに思うところですけど。お願いします。

(委員)

幼小連携と小中一貫というのは、別々のことではないと思います。それは、2校にしたから幼小連携ができるとか、そういう問題じゃなくて、例えば、1校にしたとしても、幼小連携はできる。又先ではない。でも、あいいくの丘だったら3分の1ぐらい福知山市の子どもがいると思います。だから、1校にしたら小中連携で、2校にしたら幼小連携と言われているが、例えば、1校でも二つの園との連携は当然できますしね。そういうくくり方をすると、ちょっと誤解があるかなというふうに思います。

(川上委員長)

そうですね、おっしゃるとおりですね。1校にすると幼小連携ができないかという、これは大きな間違いですよ。失礼しました。

いかがでしょうか、そのほか御意見いただければと思うんですが。

この間頂いた御意見、ごく簡単にですけど、見てまいりますと、最終的な落としどころをいつどうするかということについては、いつかということとか、より具体的なところについては、まだ議論がいっぱいあるわけですけど、そこを少し念頭に置きながら、最初の一手としてどうしていくかというような点について、委員の皆さんの御意見というのをこの後、頂くような場が必要になってくるのかなと。それに応じて具体の話というのが出てくるのかなというイメージを持っているところです。

もし御異議ございませんでしたら、次回、今回事務局から示していただいた統合パターンをベースに、委員の皆さんの御意見を伺いたいというふうに思っておりますが、この進め方について、何か御意見ございますでしょうか。よろしいですかね。

分かりました。では、次回の準備委員会の中で、統合パターンの中のどういう形をとっていくかということについて、委員の皆さんの御意見を伺う機会というのをとりたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

次第

6 その他

(川上委員長)

ということで、自由討議、それから、その他も含めてということになろうと思いますが、そのほか、御意見ございましたら。進め方、それから、この間の項を検討した中身についての御意見等々、もう少し発言をという委員さんいらっしゃいましたら、手を挙げていただければと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうかね。

長い時間にわたる御議論ありがとうございました。では、進行のほうを事務局にお返ししたいと思います。

次第

7 次回委員会の日程について

(足立教育総務課長)

活発な御議論ありがとうございました。今、次第で行きますと、その他のところまで終わったというところかと思えます。

次回委員会の日程についてですが、次回につきましては、11月4日木曜日を予定したいと考えておりますが、時間は午後7時半、場所はこの会場というところで思っておりますが、御都合いかがでしょうか。11月4日木曜日、夜です。大丈夫でしょうか。

それでは、いろいろ御都合もあろうかと思いますが、御出席いただきますようよろしくお願いいたします。

次第

(足立教育総務課長)

8 閉会

最後に閉会ということで、木寺副委員長様、よろしくお願いいたします。

(副委員長)

失礼します。皆さん、第2回ということで、また長時間にわたりまして、大変貴重な御意見を頂き、ありがとうございました。中でもいろんな意見が出ておりまして、皆さんそれぞれ真剣に今後の市島における教育を考えておられることがひしひしと伝わってまいりました。

今回は11月4日ということで、また一歩進んだ内容になろうかと思いますが、そのとき、また真剣に考えていただきました内容を発表していただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。